

インプット(理解)を 確実にするための設計と工夫



白倉 美里
(東京学芸大学)

「聞くこと」：より「リアル」な言語使用の機会を求めて

学習指導要領では、授業中に生徒に英語を使わせる際には、実際に英語を使うことが想定される目的や場面、状況などを設定することが求められている。生徒に英文を聞かせる際には、あなたはどこにいて、何のために英文を聞くのか、英文を聞いて何をするのか、といった情報を与えた上で、本物に近い疑似体験をさせることが望まれる。新しいNEW CROWNでは、より「リアル」な言語使用の機会を生徒に与えることを目指して改訂を行ったが、Take Action! Listenもこの点において例外ではない。学習指導要領の「聞くこと」の目標に含まれる「必要な情報を聞き取る」「概要を捉える」「要点を捉える」という3点それぞれに対応した活動が3学年を通して用意されており、生徒は難易度が徐々に上がっていく活動に取り組みながら聞く力を伸ばすことができる。

紙面に沿ってTake Action! Listenの特徴を見てみよう。3年Take Action! Listen 2では、カナダの高校に留学中の夏海が、ホストブラザーのマットと遊園地に遊びに来ているという設定である。混雑している園内で楽しい時間を過ごすために、園内アナウンスから有益な情報を得ようとしているという状況で、人気アトラクションの待ち時間や、一時的なアトラクションの閉鎖、特別なショーについての情報の要点を聞き取らせる。この場面や状況の設定は、多くの生徒が「遊園地」と聞いて思い描くであろうことに沿う内容になっている。



3年 Take Action! Listen 2

1st Listening ～ 3rd Listening の指導

Take Action! Listenでは、3つのステップを踏んで生徒にくり返し英語を聞かせることで、「聞いて理解できた内容が少しずつ増えていく」という成功体験を積み重ね、英語を聞くことへの抵抗感を下げることを目指している。1st Listeningでは、音声を聞きながらアナウンス

スの要点をメモにまとめ、聞き取った情報を整理していく。2nd Listeningでは、1st Listeningで聞き逃した情報を補完する目的で再び英文を聞く。3rd Listeningでは、巻末資料のスクリプトを見ながら音声を聞く。これは「聞きっぱなし」にしないための工夫である。聞く力を伸ばすためには、単に英語をたくさん聞けばよいわけではなく、聞いた内容を文字で読んだり、聞いた内容に関することを話したりするといった技能間の往還(技能統合)が不可欠である。また、スクリプトを使って音読練習した後に、再び文字を見ないで音声を聞かせることで、英語の定着はもちろんのこと、英語が苦手な生徒に「英語が聞こえるようになった!」という体験をさせ、自信をつけさせることにもつながる。

Think の指導

3つのListeningが終わった後に設けられているThinkでは、聞き取った内容について自分の感想や意見などを英語で発信する活動を行う。「自分が夏海だったら」という想定のもと、聞いた内容をもとにどのような判断をするか、そしてそれはなぜかを考えさせ、英語で表現させることを目指している。この活動を最後に設けることで、それより前のListeningの活動を生徒に「自分ごと」としてリアルに捉えさせ、集中して取り組ませることをねらっている。

★ BONUS ★ の指導

さらにBONUSでは、3つのListeningでくり返し触れた英文とパラレルな音声を聞いて、必要な情報や概要・要点などを聞き取るタスクに取り組むことで、そこまでの学びの成果を試すことができる。指導書にはパラレルな活動がさらに用意されているので、そちらも活用していただきたい。

最後に、生徒の学びをサポートする一工夫について紹介する。Take Action! Listenには「ペンギン」と「シロクマ」のキャラクターが登場する。ペンギンは、英語を聞くときにどのような点に注意して取り組んだらよいかなど、活動に取り組む際のTipsを教えてくれるのに対し、シロクマは、聞き取る情報の順番や内容の特徴などについて、生徒と同じ目線に立って気づきを促すつづきやきをしてくれる。英語を聞いているとき、生徒は一人で英語と向き合わなければならない。ペンギンとシロクマは、生徒があきらめずに最後まで英語を聞くことができるように、紙面上で生徒を支え、応援する役割を担っている。

「読むこと」をあきらめさせないレッスン構成

さらに使いやすい教科書を目指して

新しいNEW CROWNではレッスン構成が一新され、レッスンの最後に置かれているGoal Activityに向かって各Partの学びを積み重ねていくという構成へと生まれ変わった。これにより、「読むこと」の指導がさらに行きやすくなった。また、学習指導要領で定められている「読むこと」の目標のうち、「必要な情報を読み取る」ことはTake Action! Readで扱い、「概要や要点を捉える」ことはGoal ActivityやReading Lessonで扱うことで、教科書の各場面で明確な目標を持って「読むこと」の指導を行うことができるようになった。以下、Goal Activity [Read]の3つの特徴について詳しく紹介する。

無理のない連携を目指した新しいレッスン構成

Goal Activity [Read]で、説明文・意見文・物語文の概要や要点を読み取る活動を行うことを見据え、各Partでは同じテーマに基づいた短めの英文を読み、関連する語彙や表現に触れて準備を行う。例えば2年Lesson 3では、Part 1 (64語)とPart 2 (72語)で職場体験プログラムに関する英文を読み、花が興味のあることや、職場体験先のパン店が困っていること、その原因などを読み取るタスクに取り組む。それに続くGoal Activity [Read]では、『捨てないパン屋』の田村陽至さんについて書かれた220語程度の英文記事を読み、概要を捉えることを目指して、Guideの補助タスクで田村さんが経験したことや、パン店で直面した問題を整理し、Goalのメインタスクで記事のあらましを読み取る。GuideとGoalという2つのタスク構成はこれまでのNEW CROWNでも取り入れられていたが、今回はそれに加えて、**各Partでの読みの活動がGoal Activityの下支えになるように、より直接的なつながりを持たせることを意識した内容構成になっている。**

長い英文を読むという行為は、生徒にとって決して容易なことではない。生徒が英文を理解できるように、あの手この手でたくさんの補助をつけてあげることができ、それでは自力で読む力はなかなか伸びない。生徒が英文の量と難しさに圧倒されて、読むことをあきら

めてしまうようなことがないように、新たなレッスン構成で生徒の学びをサポートしたい。

読んだ後に取り組むポストリーディング活動と「ふり返り」

GuideとGoalの2つのタスクで要点や概要を読み取った後に、読んだ内容に関して自分の考えや意見を話したり、書いたりする活動に取り組む。これは英文を「読みっぱなし」にしないための工夫であると同時に、読んだ内容を自分と関連付けさせることにもつながる。例えば上述の2年Lesson 3では、「記事についてもっと知りたいことは何ですか。田村さんに質問したいことを考えよう。」という質問が用意されている。この活動の質問を作る際には、読んだ英文と同じレベルの英語を使わなければ答えられないようなものではなく、生徒にとって親しみやすく考えやすい内容であり、それまでの既習事項で十分に答えられるものになるように留意した。

さらに、Goal Activityには「ふり返り」のためのチェックリストが付属しており、「思考・判断・表現しながら活動に取り組んだか」「主体的に活動に取り組んだか」の2つの観点から、生徒が自らの学びを振り返ることができるようになっている。

「題材のNEW CROWN」らしさも健在

ここまで述べたように、新しいNEW CROWNのレッスン構成は大きく変わった。「読むこと」の指導に関しても、生徒があきらめずに最後まで英文と向き合って読み進められるように、これまで以上に手厚いサポートが盛り込まれた紙面になっている。もしかしたら読者の中には、「NEW CROWNらしい読み応えのある骨太の英文は消えてしまったのか?」と不安に思う方がいるかもしれない。心配ご無用、メインのレッスンのほか、読むことに特化したReading Lessonと、巻末資料のFurther Readingも用意している。

このように新しいNEW CROWNでは、**段階を踏んでいねいな指導と、生徒に少し背伸びをさせて挑戦させる指導の両方が可能となり、メリハリのある「読むこと」の指導を実現できる。**



2年 Lesson 3 Goal Activity

